



満月の567 (ミロク) 御神事 月の光奉賛会
令和2年の5月7日-6月6日-7月5日

海神神社・和多都美神社での御神事

日時：5月ー6月ー7月の満月を境にした前後日

場所：峰町の海神神社 / 仁位の和多都美神社

■御祈願の趣旨■

この度世間を騒がせている武漢発新型コロナウイルスの発生過程を詳細に検討すると、

「東京オリエンティックの誘致準備過程と昨年の大嘗祭に向けた御神事によって、新型コロナウイルスは産み上げられた」と、いえます。

大嘗祭の悠紀宮と主基宮の語源は、滋賀県高島市の行過天満宮にあります。つまり、天皇陛下の御代替わりにあたって、社会の「行過ぎ」現象を正すために、神が新型コロナウイルスを司る神を御使いになられているようだ。

ということは、コロナ (567) をミロク (567) に転換できるので、昨年大嘗祭に向けた御神事をお願いした対馬の御祭神のご加護を得たいと思います。

宮司様に大献祝詞、新型コロナウイルス感染症流行鎮静祈願祭祝詞を奏上げていただき、参列者で教育勅語を奉唱します。

そして、御皇室の弥栄と日本各地の宮司様の弥栄を祈り、世界の平和を祈念し、そういう活動を支えられる地域経済の繁栄を願います。

■「月の光奉賛会」とは■

「月の光奉賛会」とは、日本神話の源流をなす伊邪那岐命と伊邪那美命の国生みの島々、神話に由来する島々を顕彰する奉賛会です。代表を務める成田亨は、平成7年(1995年)の阪神淡路大震災以降、家族で日本各地の1500カ所以上の神社を参拝してきました。

御神職の方々のその先には、天皇陛下がおられるものなので、平成から令和への御代替りにあたって、こういうことが自覚できるように御神事をやっていくことを目的として設立しました。

月の光奉賛会の名称で、玉串料をお送りします。

みなさまの地元の神社の宮司様に対馬のチラシをお渡し、そして、地元の神社に玉串料を納め、対馬に合わせた御神事をお願いします。

■海神神社と和多都美神社■

海幸彦・山幸彦で有名な彦火火出見尊の時代に、海宮があった島が対馬で、現在の海神神社が海宮の場所です。山幸彦といわれた彦火火出見尊が、兄の海幸彦の釣り針を無くしたため、塩椎神の助言で、海神の宮殿に行きました。そして、海神の宮殿で、豊玉毘売命と結婚し3年を過ごしたのです。

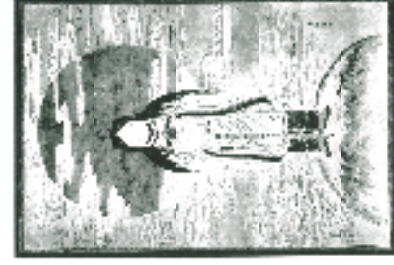
彦火火出見尊は兄の釣り針を探していたことを思い出し、海神に告げます。海神が魚たちを集め、釣り針を持っている者はいないかと問うと、赤鯛の喉に引っかかっているとわかりました。

赤鯛のこの功績により、鯛には「魚の王様」という称号が与えられ、「めでたい」の代名詞となりました。

実は、海にいる「鯛」は「國體」を現しており、神苑の池にいる「鯉」は人の団体(「政體」)を現しています。

海幸彦・山幸彦の物語は、この鯛(國體)の管理者が海神である、と語っているのです。つまり、彦火火出見尊の時代以降、皇統を維持するには対馬の神々の協力が必須になっていったのです。

対馬の海神神社を東に向かうと、淡路島の伊弉諾神宮、伊勢神宮に行きあたります。対馬の海神神社には、伊勢神宮と同等の格を与えられているのです。



また、豆殿に伝承されている「天童」は、地球の大変地異があった時代、伊勢の天照大御神さまを陰ながらサポートするために龍良山(たつらさん)に降臨された天照皇大御神さまの御姿です。

天照皇大御神さまは、神様として降臨されたのではなく、「童(男の子のわらべ)」として降臨されているので、特別に対馬では「天童」と尊称してきました。

度重なる変転によって、現在では、「天童」と「天道」が混同、習合し由来が失われています。

平成から令和への御代替りに当たって、遠い神代の昔から古代、近現代史において対馬の果たした役割に思いを馳せ、満月の日か、その前後に祈りを捧げたいと思います。

＜月の光奉賛会 代表 成田亨＞

〒177-0033 東京都練馬区高野台1-23-30 ガーデンコート高野台805

携帯 080-9175-4666 メール naritatooru@gmail.com